

第22回日本・スペイン・シンポジウム 共同座長による最終報告書

1 シンポジウム

第22回日本・スペイン・シンポジウムは、2022年10月5日、京都府において開催された。日本側から吉川ゆうみ外務大臣政務官等が、スペイン側からモレノ外務・EU・協力省外交・グローバル問題担当長官等が出席した。

日本・スペイン・シンポジウムは、2019年にスペイン・バレンシア州カステジョン市で第21回が開催されて以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により第22回の開催が延期されてきたが、今回3年ぶりに開催されたことを歓迎する。

また、共同座長として、本年6月に実施された日・スペイン首脳会談及び7月に実施された日・スペイン外相会談において、両国間の対話・協力の枠組みとして日本・スペイン・シンポジウムに言及されたことを光栄に感じる。

今次シンポジウムは、「国際秩序の転換期における日本・スペイン関係」とのテーマの下で、両国の専門家が次のとおり様々な個別セッションで議論した。

- ・「国際的な新たな地政学的環境：明日の世界における日本とスペイン」
- ・「経済安全保障：不確実性の中でのバリューチェーンの強化」
- ・「今後の経済におけるビジネス協力」
- ・「言語の果たす役割：スペインにおける日本語、日本におけるスペイン語」
- ・「観光：両国におけるコロナ後を見据えた観光振興」
- ・「食：相互理解の促進を後押しする両国の食文化とそのインパクト」これらの個別セッションで自由で活発な意見交換が行われた。

今回のシンポジウムでの議論を通じ、両国政府間の関係に加えて、本シンポジウムを含む様々な関係者間の協力が進展し、官民双方における二国間関係が強化され、具体的な成果を生み出すことを期待する。

2 日本とスペインの関係

共同議長として、最近の日スペイン関係の進展を振り返るとともに、シンポジウムにおける議論を踏まえ、次のとおり両国関係を展望する。

【国際的な新たな地政学的環境】

ロシアによるウクライナ侵略を受け、国際秩序がさらされている脅威、国際経済に与える影響等について議論した。欧州とインド太平洋の安全保障は不可分であり、国際社会が結束して対露制裁とウクライナ支援を継続すること、また、一方的な現状変更の試みに連携して対応していくことが重要であるとの認識で一致した。さらに、東シナ海及び南シナ海における力を背景とした一方的な現状変更の試みについての深刻な懸念を共有した。

【経済安全保障】

安全保障の裾野が経済・技術分野に拡大し、経済安全保障政策の重要性が増大している中、両国における経済安全保障政策の課題や取組、その背景について議論した。また、世界のサプライチェーンが持つ偏りが、安定的な物流に脆弱性をもたらすというリスクについての認識を共有し、そうしたリスクへの対応を含む経済安全保障分野における、日スペイン間の協力が一層進展することを期待する。

【ビジネス協力】

日本とスペインとの間で今後の協力の発展が見込まれる業種として、グリーン水素・再生可能エネルギー、5G・デジタル、人工知能（AI）について議論した。世界で脱炭素化を目指して再生可能エネルギーやグリーン水素の導入が重視されているほか、真の意味でのデジタル社会の実現に向けた取組が進められている中、日本とスペインとの間でこれらの分野での協力への関心が以前にも増して高まっていることを歓迎するとともに、両国の企業間での連携が更に進められることを期待する。

【言語の果たす役割】

日本・スペイン両国の交流を促進する上で言語が果たす役割、スペインにおける日本語教育及び日本におけるスペイン語教育の現状、言語が地政学的対立をどのように緩和することに寄与するかについて議論した。言語の普及は、特に若者と中心とした両国の交流に寄与する重要な要素の一つであり、語学はその国の文化、価値、アイデンティティを伝えることができる重要な手段であることを確認した。言語の普及に関して、国際交流基金、インスティトゥト・セルバンテス東京及びカサ・アジアを含む関係機関の尽力を評価する。

【観光】

日本とスペインは共に観光立国であり、2019年には日本からスペインを訪れる観光客は約70万人、スペインから日本を訪れる観光客は約13万人に達し、いずれも過去最高となった。こうした状況を踏まえ、観光を通じた地域振興を促進するための政府の施策、旅行者の意識、持続可能な観光に向けた取組等について議論した。今後の相互交流拡大に向け、観光協力の覚書を締結した日本国土交通省観光庁及びスペイン産業・商業・観光省、UNWTO（国連世界観光機関）やJNTO（日本政府観光局）等の関係機関の尽力を評価する。両国は2020年以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により深刻な影響を受けたが、今後のそれぞれの取組を踏まえ、両国間の交流が再び活性化することを期待する。

【食】

和食とスペイン料理について理解を共有した上で、日本におけるスペイン料理、スペインにおける日本料理の現状について議論するとともに、食文化の在り方について議論した。日本・スペイン間の相互理解を促進するに当たって両国の

食文化が果たす役割を踏まえ、日本と関係の深いバスク・クリナリーセンターを始めとする関係機関との協力も通じて、両国間の交流が一層進展することを期待する。

3 結語

今回のシンポジウムで、日本とスペインとの間で幅広い分野に関する意見交換が行われたことは、日本とスペインが2018年に発出した「戦略的パートナーシップ」に基づいて協力関係を一層深化させる契機となった。

最後に、今回のシンポジウムを開催するに当たって、両国の政府及び関係機関から示された協力と支援に感謝する。

2022年10月5日

日本側座長
佐藤義雄

スペイン側座長
ジュゼップ・ピケ